まちづくり市民会議 第2小委員会議事録②

■日 時	2007年10月9日(火) 午後6時30分～午後8時35分
■場 所	太田市役所 10階 政策推進会議室
■出席者	委員8名 西村委員長、森尻副委員長、荒井、内田、神谷、栗原、 後藤、福島 市2名 奥川、正田

【概要】

1. 会議の目的

- ・各委員のまちづくりに対する考え方を共有、相互理解し、ベクトルを合わせるとともに参加意識の集約を図るため、引き続き意見交換を行う。

2. 会議の内容

(1) 意見交換

①ウォーキングコースの整備

- ・道路や公園、河川堤などについて経費をかけず改修し、市民に身近で安全に運動できる場所を確保する。
- ・イギリスでは、国土全土において身近な散歩道が整備されている。
- ・国内においても福岡市の大濠公園などの例がある。
- ・出発地点からの距離を表示し、市内の各遺跡を巡るようなコース整備も考えられる。
- ・渡良瀬川の河川緑地を整備する計画があるが、気軽に利用できる身近な地域を整備した方が良い。
- ・植栽などの景観に配慮し、コース整備を推進する特定地区の指定などを条例で規定する方法も考えられる。
- ・市の財政に考慮するため、一度に大規模な整備を行う手法ではなく、「既存の道路や公園、河川堤などを改修する手法」や「新たなインフラ整備と同時に整備する手法」を取り、整備にともなう経費や期間に配慮すべきである。
- ・車を中心とした道路から、子どもや高齢者などの安全に配慮する歩行者を中心とした道路に変更する「道路行政の転換」が必要である。

②食育の推進

- ・日本の食料自給率は40%程度で推移しており、大きな問題になっている。
- ・衰退が進む農業に対し、国は農地を集約するため大規模農家の支援策を打ち出している。
- ・設置が予定されている「道の駅」を活用し、農業や観光の振興を図る。

- ・食文化を通じて子どもを育み、また「食育」と「地産地消」を結びつける必要がある。
- ・「食育」を効果的に進めるため、PTAなどの地域社会と連携する必要がある。
- ・遊休農地を有効活用するため、品種改良された飼料用米の栽培も考えられる。
- ・朝食を取らないで登校する子どもや給食費未払い家庭が増加するなど、問題が山積している。
- ・「簡単朝ごはんメニューの冊子配布」や「親を対象とした講演会の開催」などを実施し、食べることに関心を持ってもらう必要がある。
- ・効率優先主義により、職場などにおいても世代間において物事を伝承する余裕がなくなっている。物事を伝承する方策が必要である。
- ・郊外型開発の増加にともなう「核家族化の進展」や「地域コミュニティの荒廃」により、子どもを育てる親の教育が必要になっている。
- ・インフラ整備に多額な費用がかかる「郊外型開発のまちづくり」から人口を集約し拠点づくりを進める「コンパクトなまちづくり」に改める必要がある。
- ・人口減少時代の到来により、まちづくりを根本から考え直す時期に差し掛かっている。

③地域伝統文化マップの作成

- ・事務局が、既存の文化財冊子や観光マップ、市ホームページのデータを配付し説明した。
- ・今後は、既存の資料をどのように活用するかを検討する。

(2) 今後の進め方

- ・事務局が次回の小委員会で行う「ウォーキングコース」や「サイクリングロード」の整備状況報告を踏まえ、追加整備が必要かなどの判断をする。現地調査も検討する。
- ・地域伝統文化マップは、既存の資料に掲載されている情報を各委員が検証する。
- ・次回の小委員会は、「環境」をテーマに議論する。
- ・「小委員会意見用紙」を活用し、10月26日（金）までに事務局へ報告する。

●次回会議のお知らせ

第3回 定例会

【日時】10月26日（金）午後6時30分～

【場所】市役所10階 政策推進会議室

第3回 第2小委員会

【日時】11月13日（火）午後6時30分～

【場所】市役所10階 政策推進会議室